

## みなとみらい産官学ラウンドテーブル 第30回公開セミナー

平成28年10月5日(水)に、『みなとみらい産官学ラウンドテーブル第30回公開セミナー』が横浜国立大学成長戦略研究センター主催により、横浜情報文化センター7F大会議室にて開催されました。

今回は、三菱電機株式会社 河田薫氏と富士通株式会社 岩佐和典氏をお招きし、本学成長戦略研究センター 連携研究員 浅井龍夫氏とともに、「IoT時代への展望：Industry4.0とIICをふまえた問題提起とモノづくりの将来像」というテーマでご講演頂きました。聴講者も会場一杯の約45名と大盛況でした。

はじめに、浅井氏から製造業の「スマート化」を目指すドイツ先導 Industry4.0に関する技術的背景やモチベーションを共有すると共に、近年の主要産業諸国の国家戦略や民間主導 IIC (Industrial Internet Consortium) 等といった関連団体の動きに関する説明がなされました。続いて、三菱電機(株)の河田氏による講演では、将来のモノづくりにおけるリソース間の連携状態と製造プロセスの管理に関して俯瞰的かつ詳細な視点からご説明がありました。さらには、三菱電機における具体的な導入例を元に、従来の経験則・自然法則の産業化から、これからはソフトウェア活用した論理体系の産業化へと、管理ポリシーの変革が求められているといったご提案を頂きました。また、富士通(株)の岩佐氏による講演では、民間主導型 IIC における富士通の取り組みと実際の実装化における製造業に関するテストベッドを例に、富士通の活動が運営面・技術面でビジネスの活性化に貢献している点についてご説明がありました。

両ご講演後、安本雅典(横浜国立大学)先生を司会に、本テーマについて様々な質疑応答が行われました。具体的には、以下のような議論がありました。

**主な質問内容:**①IoTを活用したビジネスモデルにアフターサービスを組み込むことができるか?②中小企業における産業IoTへの参入に関するリスクは?③IICシステム全体の構築や構想に関してどのように推進していけばよいのか?④産学官への取り組みやシナリオはどのように考えているか?④アカデミックに対する要求はあるか?⑤日本における産学官連携の現状は?⑥国家戦略として米国による日本技術の吸い上げの心配はないか?

**主な返答内容:**①エレベーターや大型トラックにすでにアフターサービスがあるように、モニターを目的としたIoT技術の導入が考えられる。②情報のクラウド化により参入障壁は下がっている。③セキュリティチェックや収支を元にしたIoTシステムの導入を考慮すべき。④学問分野ができてよい。日本の強みであるものづくりの文化や感性を生かすべきである。⑤産官学のそれぞれの役割を認識し、補完的関係を明確にすべき。⑥日本のものづくりはそんな簡単に吸い取れないのでは。だが十分に注意すべき点は多くある。

今回のラウンドテーブルでは、講演に対する質疑応答は講演後にまとめて時間を取りパネルディスカッション形式で行いました。フロアからの質問にも十分時間を取ることができ、全体としても笑いのある聴衆を巻き込んだ講演、深い議論が行われました。

次回11月11日(金)にランドマーク25Fにて「第2回IoT時代への展望(仮名)」を開催する運びとなりましたので、万障お繰り合わせのうえ、奮ってご参加くださいますようご

案内申し上げます。

【参加者のアンケートから】

参加者 45 名の内 34 名からアンケートの回答があり、大半の方から「期待した内容である」、「参考になる」と評価を頂きました。

アンケートでは下記の意見をいただきました。

- ・ユーザから見た IoT、スマートファクトリのとらえ方が理解できた。
- ・技術面の話に加えて (HOW)、何が良くなるのかというわかりやすい「WHAT」が重要と理解しました・
- ・多くのキーワードとその意味を学ぶことができたと思います。

【セミナー会場の様子】



